

# 地域になくてもはならない企業に

## 上閉伊酒造について

上閉伊酒造は、寛政元（1789）年、初代新里庄右衛門が建屋酒造店を創業したのが始まりで、今年で230年を迎えます。昭和19年、戦時統制により上閉伊地区（遠野・釜石・大槌）の7業者が合併し「上閉伊酒造株式会社」となりましたが、戦後分社を経て現在に至っています。

遠野三山のひとつ六角牛山（ろっこうし）の伏流水（軟水）を利用した清酒造りを行い、平成11年からは遠野産のホップを使用した地ビール「ズモナビール」も製造販売して参りました。

そして、長い歴史のある当社に、企業経営の経験が全くない素人の私が社長に就任したのは平成26年12月のことで、5年目を迎えた昨年12月には経済産業省の「地域未来牽引企業」に追加選定いただきました。

## まさかの社長業

私は大槌町で生まれ、高校まで過ごしたあと、東京の大学に進学しましたが、その後縁あって当時の上閉伊酒造の社長の弟で勤務医をしていた主人と出会い結婚、専業主婦となりましたが、主人が遠野で開業することとなり、平成5年に遠野に移り住みました。

その後、平成13年に社長である義兄が亡くなり、その姉が後を継いだのですが、「日本酒離れ」など経営は厳しい状態が続き、平成26年、姉が引退表明するも、跡継ぎは周囲に誰もなく、当時、主人が資金支援をしていた関係で私にお鉢が回って来ました。

ところが、我が家でもその1年前に主人に癌が見つかり、病状は厳しいものとなりました。そして私の社長就任から2ヵ月後の平成27年2月に主人が亡くなり、社長に就任したものの仕事らしい仕事もできずに、よう

やく落ち着きを取り戻したのは四十九日を過ぎた4月ごろからでした。

その後、医院も患者さんの受入先をみつけ、従業員さんには退職していただき閉院し、一人になって会社のことを考えると、会社の経営は依然として厳しかったのですが、医院がなくなり、この先会社までなくなってしまうといいのだろうか、と思ったのです。そして、このまま何もしないで白旗を揚げたくはない、という思いが湧いてきました。何も分からない私でしたが、社長はやめられない、まずは始めることだと決めました。

## 「お酒造っているの？」に発憤

社長に就任してすぐの頃に衝撃を受けたことがあります。思いがけず聞こえた地元の方の一言。「あそこの蔵ってお酒造っているの？」。確かに、義兄が亡くなったあと一時期、よ



上閉伊酒造株式会社  
（遠野市）  
代表取締役

新里 佳子（よしこ）

その会社に酒造りをお願いしたことはありませんでしたが、地元唯一の、2000年を超える酒蔵なのに……。そして時あたかも12月の新酒の仕込みの真つ盛りで、従業員が朝早くから働いているのに……。だったのです。

そこでもまず、地元の人に知ってもらわなければ何も始まらないと言うことで、地元の新聞社やケーブルテレビなどに声をかけ、酒造りの現場を取材してもらい、私自身は地域の人が集まる場所にはなるべく出かけ、瓶の封を切って飲んでもらい、地域の皆さんに「頑張って造っています」とアピールすることから始めました。酒造りも会社経営も何も分からない、大槌の酒販店の娘に生まれた私には、お酒を飲むことしかできない、と腹を括ってアピールに務めた最初の1年間でした。

### 新商品開発と連携ネットワークの構築

そうして1年が経ち、会社や周囲の様子も分かってきたころ、地元の商工会さんなどからサポートを受け、経営改善計画の策定に取組みました。自社の強みや弱み、機会や脅威といった経営の足元を見つめることで、利益率の改善などの経営課題や今後の見通し、方向性といったものを考えることができ、資金調達の道も開けてきました。

そうすると、設備は古く、資金もないため久しく新しいことをして来なかった酒造りの現場から、いろんな要望の声が上がってきました。私はそういったポトムアップの動きが

とてもうれしく、また心強く、なんとかして全面的に応えていきたい！との思いで、清酒、ビールに、桃色濁り酒、梅酒と、新たな商品の企画・開発を後押ししてきました。

大槌で生まれた私は、東日本大震災津波で両親や親戚そして友人と、たくさんの別れを経験しましたが、その大槌で被災された菊池妙さん宅の玄関先に稔った3株の稲穂を栽培した「大槌復興米」を使用し、平成29年6月に発売したのが「たえの酒」です。震災後、被災地支援活動を行って大槌復興米の生産にも携わる「NPO法人遠野まごころネット」さまにお声をかけていただき、多くの方の協



大槌復興米を使った  
特別純米酒「たえの酒」



世界屈指の審査会で  
評価された「ズモナビール」

力で実現しました。

「ズモナビール」もゴールデンピルスナーやヴァイツェンなど国際的な審査会で金賞を頂くようになりました。また、遠野市とキリンビールが連携し「ホップの里からビールの里へ」を合言葉に取り組む「TK（遠野×キリン）プロジェクト」に平成27年から参加し、当社単独では出展できないような大きなイベントにも参加する機会をいただいたほか、先月9日にJRR東日本盛岡支社さまが発売した遠野産ホップと大槌復興米を使ったオリジナルビールも当社が醸造しました。

### 感謝の心で継続

社長就任以降、ゼロからの出発でしたが、今、立ち止って考えると、経営というものを経験して、わかってきた分、その怖さも感じているところです。全ては決算書の数字の結果であり、経営の安定を目指して、これからも頑張らなければならないと、気持ちを引き締めております。

ここまで何ひとつ自分一人でできた事はなく、多くの方との連携や協力があってこそ今があります。コンパクトで効率的、でも存在感のある企業、地域の酒文化を守り、遠野になくしてはならない企業そして、嬉しい時、悲しい時、様々な人生や生活のシーンでいつも寄り添うお酒、ビールを提供し続ける企業であるよう、これからも感謝の気持ちで取り組んで参ります。